

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170201184		
法人名	フォレストバレー株式会社		
	グループホーム東福原の家		
所在地 (電話番号)	米子市東福原7丁目10-35 (電話)0859-38-0050		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(150,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 133 円
	または1日当たり		1333 円

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86 歳	最低	84 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック ふれあいクリニックやざき 小徳歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は米子市郊外に平成16年に創設され丸5年が経過したグループホームである。周囲に新築の家が増えてきてはいるが畑や空き地の点をするのどかな環境に立地している。開所当初から続いた管理者や計画作成者の交代も、この1~2年は落ちついてきており、ホーム長を中心に職員は「自分が暮らしてもいい」と思えるようなグループホーム作りを大切に日夜取り組んでいる。ホーム全体に漂う温かい雰囲気と、利用者の落ち着いた表情と人懐っこさが印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題の理念の見直しについて従来通りの理念とすることが検討されている。運営推進会議の開催については3ヶ月に1回と定期化されてきている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価外部評価の意義を理解して、全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催されており、事業所の報告が主であるが、地域の消防団と連携し、防災訓練等への参加・連携等、サービス向上につながる様取り組み始めている。事業所と参加メンバーの双方向的な会議となるよう、これからも期待していきたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や要望を引き出す努力はミーティングで話し合いサービスの質の向上に努めている。運営推進会議に家族が順番に出席できるように働きかけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的には散歩や畑の野菜作りで地域の人達との交流をはかっている。地元の公民館とは積極的に催し物等に参加し、又事業所主催の催し物に地元の人の参加もみられる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価で地域密着サービスの役割を目指した内容をもりこむことを改善項目にあげられていたが、地域密着の意味について検討し、従来通りの理念とすることになっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々行うミーティングは、理念をベースに話し合い、全員が理念を共有できるようにしている。新入職員にもよく伝え、理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃、散歩や畑の野菜作りが近所の人との交流の場になっている。自治会には加入していないが、公民館の活動には積極的に参加している。また、ホームの開設祭への招待など交流はたくさんある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、全員で検討して自己評価を行っている。改善点についても検討し取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運推会議は3ヶ月に1回開催している。会議は公民館長、民生委員、地域包括の職員、家族代表で構成されており、事業所の活動報告が主に行われ、サービスの向上に関する話し合いが少ないようである。	○	事業所の取り組みや具体的な課題について、メンバーの人々が積極的な話し合いが出来るような働きかけをされるとよいでしょう。報告のみに終わらないよう、いろいろな場面で活用されるよう望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者、地域包括支援センターに事業所の実情を伝え、情報を共有している。スプリングラーの設置等について、市担当者と共に取り組んでいる。市担当者よりも、支援センターとの連携が密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報紙に利用者の状況を記入し、金銭管理の報告と共に送っている。面会時や電話で積極的に連絡報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の意見には傾聴し、話し合いをして、対応している。家族の意見や要望は来所時や電話等で聞くようにしており、得られた意見はミーティングで話し合いサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務票作成時の公平な配慮や個人面接など、ホーム長を中心に職員の離職を最小限にとどめる努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、資格取得研修など職員を育てる取り組みが行われており、研修後の伝達は報告書とミーティングで報告されている。	○	更に事業所はサービスの質をあげるために職員の段階に応じた年間の研修計画をたてられることを期待する
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟して、相互研修に参加し報告書を交換し、サービスの質の向上に役立っている。また、実習生も受け入れ、報告書を書いてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近、病院からの入所が多い。入所前に利用者と家族に見学してもらい、出来る限り納得して入居出来るように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	五感を通じて共に喜びや痛みを分かち合うことに努め、共に支え合う関係作りに努められ、一人ひとりの個性を大事にケアがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“利用者がその人らしい生活ができるように”という理念の実践にむけて思いや意向の把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを定期的に行ない、6ヶ月に1回見直しを行っている。状態が変化した場合は関係者で話し合い、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその場、その場のニーズに対応して外出、通院などの支援が柔軟に行われている。また、担当職員と二人で月に1回外食をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の利用者もいるが、多くの利用者は入所時納得して事業所の協力医をかかりつけ医としている。協力医は定期と緊急時の訪問治療を行っている。認知症専門医も協力医となっており連絡をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は基本的には見取りは行わない方針で、重症化や終末期に向けて家族と話し合いを行ないながら、方針を決めている	○	終末期のあり方などの学びを深め職員全員が方針を共有できるような取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように日頃から話し合い実行されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は自分のペースで過ごしており希望に沿った生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の希望を取り入れた献立を作り、調理、盛り付け、後片づけを一緒に行ない同じテーブルで職員も同じ食事を食べている。利用者と担当者が外食にでかけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に合わせて毎日の人もあり、そうでない人もある。風呂は清潔に掃除してあった。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしの中に様々な活動メニューが取り入れられており、職員は利用者それぞれにあった役割や楽しみごとを見つけだす支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩、買い物、畑仕事の支援は元より、美術鑑賞などの個々の外出希望にも対応している。花見などの遠出も年数回実行されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけられていないが外に出る人にはセンサーでキャッチしており、職員は一緒につきそう支援が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災設備会社の指導で年1回火災訓練が行われており、食品水分の備蓄も行われている。営推進会議を利用し、消防署をはじめ、地域の消防団へ働きかけ、協力体制の確立に向けて進行中である。	○	夜間想定の実施や近隣住民の方との合同訓練も良いと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、一人ひとりの状態に応じて食事の形態や量などを配慮した支援が行われ、記録も残っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔感にあふれ季節感を大切にした家庭的な温かさも感じられる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた生活用品や装飾品が持ち込まれており、掃除も行き届いて居心地良さを感じられる部屋となっている		